

朧
おぼろ

棚
づき



日常に
浮かぶ、溶け込む



辿り着いた、 三日月のモチーフ

家具というのは、どんな形であれば使いたくなるのだろう。

まず、動きのあるデザインが目を引くこと。次にその家具自体が部屋全体の雰囲気を決めること。そして、その家具で得られる体験

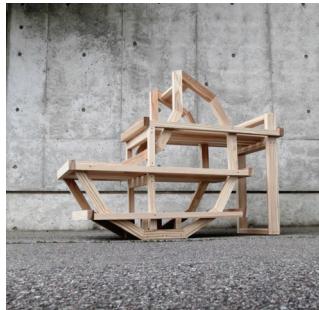
があること。これらすべてを実現するにはどんな形が……。

…そうだ、月をモチーフにしよう。

流れの雲の間から顔を覗かせる、趣のある三日月のモチーフを棚の形に落とし込む。この家具が使用者に与える印象は、普通の棚でもなければ、木材で造られた月の置物でもない、あくま

でも月を象った棚なのだ。物を置いたり、掛けたり、そこから取ったり。普段は空に浮かんでいるはずの朧月が、いつも自分の近くに、棚として在ってくれる。月を使うという特別な体験が、まるで月明かりに照らされた夜道のように、退屈な日常に一本の光の筋を通してもらう。

三日月のモチーフにはそんな願いが込められている。



ずらして自分好みの家具に



支持体の部分は動かすことができる。

月の側面に何か立てかけたいとき、その大きさによって自由に幅を調節でき、立てかける角度も変えることができる。

また、表裏対称のデザインで、見え方も変わってくる。

自分好みの月で、

自分好みの日常を。



使い方

立てかける

乗せる

引っ掛ける

Etc...

